

第4回滝沢市ネットワーク会議

# 在宅ボックス滝沢の機能について

## 在宅医療介護連携コーディネート事業

平成26年10月15日

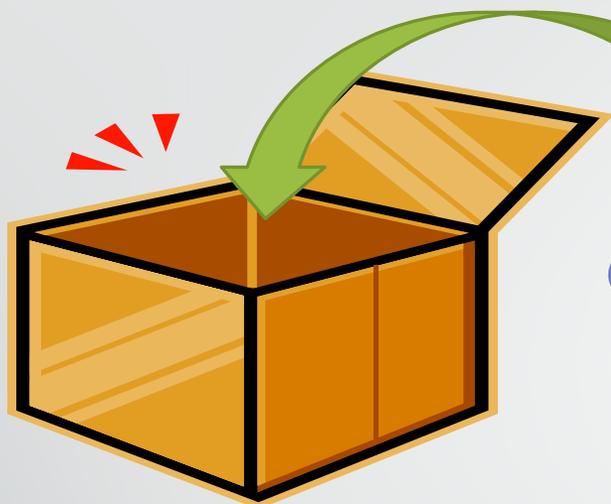
在宅ボックス滝沢

加藤 忍

宮城 路子

竹花 さやか

# 在宅ボックスとは



在宅に関する情報を取り込んでコーディネート

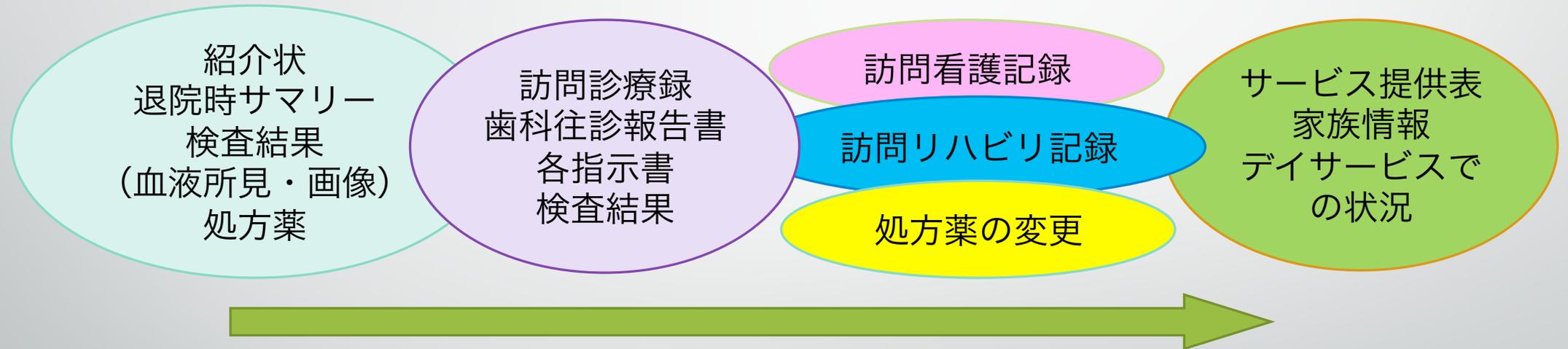
1. ネットワークの構築
2. 多職種連携のためのネットワークシステムの構築
3. 患者の受け入れとコーディネート
4. 事例検討や勉強会等の開催
5. 運営協議会の開催と運用

# 1. ネットワークの構築

- 複数の在宅医の休祭日当番制
- 患者情報・診療情報のデータ化と管理
  - ➡ 在宅患者様の必要情報を整理し、システムへ取り込み・管理する。
  - ➡ 往診時に、i P a dやスマートフォン等の端末を持参し、患者情報・診療情報を閲覧し、診察・処置をする。

## 2. 多職種連携のためのネットワークシステムの構築

- 患者情報の共有



- 掲示板・・・勉強会のお知らせ等、周知事項の掲載。
- メール・・・時間帯に関係なく報告相談が可能。

### 3. 急性期病院からの在宅患者の受け入れ・ コーディネート

- コーディネートはCMを中心に進めてもらい、在宅ボックスはサポート的な役割を果たす。
- 在宅ボックスが介入することで・・・
  1. 急性期病院から在宅へ退院してくる前の段階で、各担当者が集まり会議を開催する。その時に紹介状や転棟・退院時サマリーの内容がシステムを通して周知されている。
  2. システムの利用により、多職種との連携がスムーズに図れる。
  3. 患者の臨床データを受け取り、活用しやすい情報として整理して伝達する。

## 4. 事例検討や勉強会の開催

- 多職種での勉強会：連携への関わり方に関する意見交換  
事例検討等
- 職種毎の勉強会：より具体的な学習
- 事例検討会：包括支援センターとの合同開催

## 5. 運営協議会の開催と運営

- 滝沢市からの委託を受けての事業の為、地域包括支援センターとの共同で開催運営していく。
- 原則として、月1回の開催。（9月に1回目の準備会を開催）

### 協議会メンバー（委員会制）

岩手西北医師会      岩手八幡平歯科医師会

ケアマネ協議会      岩手県薬剤師会      訪問看護協議会

滝沢市地域包括支援センター      在宅ボックス滝沢

## 滝沢・盛岡市内の事業所からの声

### ケアマネジャー

- 訪問診療に限らず、外来通院している方々の情報も共有できると良い。
- 生活上・サービス提供上の留意点など載せてくれるとありがたい。
- 訪問リハでは指示書によって連携出来ていて、CMもそれを見るチャンスはあるが、指示書のないディサービス・通所リハでのリハビリで、留意点等を問われることが多くあり、医師に口頭で確認せねばならず、そのようなケースで便利に使えると良い。
- 薬の管理が出来ない方が多いので、一方化や日付の印字等相談したいことが多い。是非、薬局に参加してほしい。
- 主治医のご意見をお聞きしないといけないことが多いので、時間帯等を気にせず相談できる機能があると助かる。
- （連携システムを使うにあたって）なるべくお互いの時間や労力を省略できるような良い案を考えていただきたい。

## 滝沢・盛岡市内の事業所からの声

### 薬局

- Drのカルテの中身（診療録、検査結果、処方）が閲覧できれば、充分と考えている。
- 多くの薬局に参加してもらうことが大事で、処方情報の漏れがないような手段は、各薬局のレセプトコンピューターが連携のシステムに繋がれないとなると、**お薬手帳の活用**しかないと思う。
- 患者様が飲みやすい、または管理しやすいお薬の出し方を、ケアマネジャーや看護師のスタッフと情報交換できると良い。

### 滝沢・盛岡市内の事業所からの声

- 皮膚科・眼科・耳鼻科の参加を是非お願いしたい。（薬剤情報必要）
- 受診できない人で、（特に皮膚科等）写真をメールで送り指示をもらえるようにしたい。
- 報告・連絡をメールですること、確認や返信があると便利。
- 滝沢市全体で支援していくのであれば、賛同する者だけでなく全体（全事業所？）が参加した方が良いように思う。
- 看護計画・報告書は、紙面での報告がいらないのであればOKだが、二重報告になる為、システムでの報告はいらないのでは？
- 個人情報がどのように扱われるのか？情報共有するにあたって、契約書類はどのようにするのか？

## 滝沢・盛岡市内の事業所からの声

### 訪問リハビリ

- 画像・動画にて情報共有が出来れば、早めの処置や介護方法の統一に結び付けられるのではないかと。
- ディサービス・ショートステイ利用時の状況が担当者会議の時しか情報が得られないことが多いです。
- ショートステイ利用後、歩けなくなるという方がいらっしゃる為、ショートステイ先のスタッフの方へも、アドバイス等ができる連携体制があれば良い。
- 1人の利用者の経過が、一つの画面で見られると良い。
- 医療の方には今回のシステムは合っている印象を受けたが、介護保険の方にはどうだろうか？という感じがした。
- 心配な点として、個人情報の取扱い。仕事量が増えること。
- 訪問診療のDr以外のDr・クリニックも参加した方がより良い連携が図れるのでは？

# まとめ

- ケアマネジャーが中心となり、在宅医、訪問看護師ステーション及びそれに関わる職種がチームを組んで、患者様のケア・サービスの提供にあたります。
- 在宅ボックス（運営協議会）は、ICTを活用してサポートにあたります。

